

徳島市新産業振興施設(仮称)整備計画(素案)に係る パブリックコメント手続の意見取扱結果

意見提出期間 令和元年6月28日(金)から令和元年7月29日(月)

意見提出者数 13人

提出意見数 56件

計画の修正 提出いただいた御意見に対する市の考え方は別紙のとおりであり、今回、御意見に基づく修正は3ヵ所です。
なお、その他の御意見につきましても、本計画を推進していく上での参考とさせていただきます。

提出された意見の概要と市の考え方

新産業施設の整備に向けての基本的な考え方（8件）

No	提出された意見の概要	市の考え方
1	自治体も財政的に大変である。大きな施設は要らないし、単なる物品販売施設だけでも要らない。ただし、徳島市民に活用してもらいやすい施設で、交通の便の良い高齢者でも立ち寄りやすいものがあれば市民のためになる。	いただいたご意見は、今後、本計画を推進していく上での参考とさせていただきます。
2	テレビ報道で木工会館の建替えを希望している高齢の人たちを見かけるが、このために税金を投入するのは辞めて、子供や若い人たちのために有効活用してほしい。	
3	住宅関連の木材ですら工場ではプレカットされて現場に運んできてプラモデルのように組み立てるだけの時代である。安価な家具などは大型量販チェーンで買うのが当たり前で、高級家具は大都市にいくらでも展示されている。こんな時代錯誤の施設に貴重な税金を投入するのはやめてほしい。	
4	木工会館で定期的によく分からない集客イベントが開催されているが、個人の趣味の延長のようなイベントを税金がかかった施設でやるべきではない。	
5	長期的にみて衰退基調にある藍・木工といった産業資源を守り、伝えるだけでなく、新たな産業活用を模索していく場であってほしい。	
6	市民誰もが利用しやすく、入りやすい施設があるといい。	
7	徳島市の今後のことを考えると、徳島市の産業、文化の発信地として活用できる施設であり、市民の認知度が高まるような場所も考えてはどうか。	
8	木工会館があるが、徳島市民で木工で生計を立てている人がどれほどいるのか。37年前とはまったく世の中が変わっているのに、このような施設が必要とはとても思えない。	

施設運営について (9件)

No	提出された意見の概要	市の考え方
9	できるだけ民間活力を生かせるような施設になってほしい。	管理運営体制については、指定管理者制度の導入を軸に、民間の活力を活用していくこととしております。
10	木工会館に来てもらっているお客には、駐車料を負担してまでなかなか施設には来てもらえない。	本計画に、「自家用車による利用者の利便性も踏まえ、駐車場の確保に努める」を加えることとします。
11	徳島は車社会であるし、家具などの商品を購入する際にバスや自動車で購入に来るお客様は殆どいないことから、駐車場のある車で来れる場所が理想である。現在の木工会館であれば駐車場もあり利便性が良いと思う。	なお、徳島駅前周辺は、バスやタクシー、列車など公共交通機関の集約地点で、県内最大のターミナルとして多くのイベントが開催されているとともに、アミコビルには年間約400万人の利用者がいることから、多くの人出が確保できるものと考えています。
12	木工会館の利用者は車を利用されている方が多数であり、駐車場の問題や売り上げ減少などの難題がある。	
13	地場産業発祥の地である現在の場所には、駐車場やスペースなど利点が多々ある。	
14	郊外型のショッピングセンターを見れば、無料の駐車場のある所に人は集まることが良く分かる。	
15	駅前に新施設ができた場合、車が置けないため、物づくり関係者は、利用しないと思う。	
16	現在の木工会館の運営方法にも疑問があり、使われていない部屋などをより有意義に使用方法や展示に関しても疑問点がかかりあるが、これらは今後の運営方法を見直すことで解決ができると思う。	いただいたご意見は、今後、本計画を推進していく上での参考とさせていただきます。
17	現在、木工会館の管理運営のために市は地場産業振興協会に対して、毎年度、約2千万円の指定管理料を支払っているが、その指定管理料を下げ、木工会館の空き部屋を貸し出したり、他に運営費用を賄えるような使い方をし、いろいろな方向からその方法を考え、地場産業振興協会への支払いを削れば維持管理費用を軽減できるのではないか。	

施設の整備について（14件）

No	提出された意見の概要	市の考え方
18	徳島市の地場産業全体を考えたの催事ができる利用しやすい施設がほしい。更に余裕があれば、レンタルルームとか市民に開放するイベントスペースが併設されるとよい。	産業支援ゾーン、交流促進ゾーンとも開放的な運営により、人々の交流を促進し、にぎわいづくりに資する施設とします。
19	起業者育成支援施設とするためには、ただ交流や情報発信、セミナー等から起業の動きが生まれるのを待つのではなく、大学などが実施している「チャレンジショップ」のように、起業に興味のある学生や起業に挑戦してみたい一般市民といった次世代の人達に商売を小さいリスクで実践経験させるような場所をつくってほしい。	本計画に、「次世代を担う若者の起業意欲の醸成につながるチャレンジショップの設置についても、併せて検討」を加えることとします。
20	行政主導の飲食対応のチャレンジショップはあまり見かけないが、需要は確実にあるとともに、広く市民が集う場になると思う。	
21	新施設の産業支援ゾーン(150㎡)、交流促進ゾーン(120㎡)では狭く、これまでのような作品の展示販売の機会が損なわれる。	本計画における施設全体の規模について、「300平方メートル程度から450平方メートル程度」へ拡大することとします。
22	搬入搬出が大変、ショールームが狭くて展示できないなど、私たちは駅前移転に反対します。	特に、ショールームの設置予定場所であるアミコビル1階フロアでは、200平方メートル程度を確保します。
23	木工会館での常設展示販売は工芸製造者にとって、とても大切な生活のかかっているものである。駅前ではとてもこのスペース、駐車場の補いは出来ないと思う。	
24	コスト面から、現施設での耐震補修で、最小限のリニューアルをしてはどうか。学校の耐震補修では、休校なしで可能なように、休館を最短期間に抑えることも可能と考える。	現施設については、平成22年度に実施した耐震診断により、大規模な地震において「倒壊、又は崩壊する危険性が高い」とされるIs値が0.3未満の建物であるとの結果が出ています。
25	木工会館の移転は、建物の老朽化によるとあるが、耐震化の選択肢は十分検討したのか。	現施設の耐震改修については、工事中には同施設を使用できないほか、耐震工事や老朽化対策などに3億円以上の費用がかかると見込まれています。
26	国のスパンでは、耐震基準は40年であることから、現在38年目である木工会館は2年の猶予がある。その間にもっと業者や市民との話し合い、より良い発展的な方法を見つけることが出来るのではないか。	
27	耐震診断を行っているのであればそのデータや建替え又は耐震にかかる費用などを提示した上で業者や市民に対して移転する理由を説明する義務があるのではないか。	

28	徳島の伝統産業の文化と技術の継承、中小零細事業者による新しい商品の開発とその展示場所の提供が、地方創生につながる。	ショールームでは、本市の地場産業の歴史や魅力など、モノにまつわる「学びの場」としての機能を併せ持つものとしています。なお、展示場所や物品販売施設の設置については、可能な限りの対応していきたいと考えています。
29	あくまで市民のための施設であり、その上、県外・外国観光客の誘因に繋がる地場物品販売施設も併設してほしい。	
30	よくある藍染体験、木工体験を行うのではなく、「藍の染料を使って、〇〇出来ないか」といった来訪者が自由に試作ができるような場であったり、3Dプリンターやレーザーカッターなども取り入れ、より幅広く事業開始前に試作品の製作が出来るような場所になれば、産業振興施設として利用されると考える。	
31	市の予算の関係もあるが、現在の木工会館の運営や耐震なども考え、もっと広い視野で業者や市民との話し合いで将来に向けてみんなが納得し充実した使い方が出来るような設備を考えるべき。	

新産業施設の設置場所について（17件）

No	提出された意見の概要	市の考え方
32	コワーキング、インキュベーション、交流促進ゾーンが一体となった施設が、駅近くに出来るのは非常に嬉しく思う。	いただいた御意見は、今後、本計画を推進していく上での参考とさせていただきます。
33	駅から500mの立地であれば、市内3大学の学生も比較的通いやすく、また現在そうした場所もないので、一般の起業家予備軍にも注目される施設になると考える。	
34	広いエリアから来訪者を呼び込もうと思うと、施設の位置を考える必要はある。	
35	今回の駅前移転に関しては、新施設ではスペースが狭く、駐車料金が必要となり、展示品の搬出入も不便となる。観光面では評価できるが、地場産業振興という面からは評価できない。	
36	木工会館を駅の近くに移動することで、百貨店の活性化にはならないし、それよりは売り上げを伸ばせるように市が協力し、他に良い方法を見つけるのが良い。	

37	新施設の移転先がJR徳島駅南側出入口から半径500m以内に絞ることは、アミコビルを前提にしているようなものではないか。	施設の設置場所は、公共交通機関の利便性が良く、多くの人を利用しやすい場所である徳島駅周辺500mの中から、公募により選定しました。
38	徳島駅の500メートル以内で展示スペース120平方メートルの施設の場合、大きな家具を搬入するには、時間がかかりすぎて業者の負担になる。	設置候補施設であるアミコビルには、専用の搬入出の荷捌きホールが設けられており、特に、ショールームの設置予定箇所である1階フロアは、同ホールから至近の場所にあります。
39	他県の木工産地等の大川や旭川なども、搬入搬出などの点から展示場は郊外にある。	
40	現在の福島には木工会館による賑わいや地域住民との関わりもある。この町の灯を消さないでほしい。	
41	現在地になぜ木工会館が建設されたのかという理由を辿れば、移転は反対である。	木工会館が、これまで木工業発祥の地で担ってきた役割については十分に認識しています。 しかしながら、現施設が耐震化・老朽化や役割の変化などの課題を抱える中、「徳島市立木工会館あり方検討委員会」における審議において、徳島市の財政状況や費用対効果のほか、整備期間など、総合的に勘案した結果、「既存施設へ移転することにより、新たな拠点を整備すべき」との提言がなされたところです。 なお、新たな施設において、本市の地場産品の歴史や魅力についての情報発信をしっかりと行うとともに、総合的な産業振興としての整備を行ってまいります。
42	業種に関わらない地元産業の為の開放的な施設が、もっと分かりやすい場所に有っても良い。	
43	地場産業を想定した場合、福島の木工業というイメージは年代と共に薄れてきているように思われる。	
44	木工会館は居住地の近くにあるが、行ったことがない。また、ニュースで催事を行っていると報道されている事がよくあるが行ってみようと思わない。活気がないように思われる。地理的なものもあるのかも知れないし、知名度も今ひとつと思われる。	
45	小学生の時、小学校前にあった施設であり、その後、木工会館という名称を知ったが、行ったことも利用したこともない。地元にもともと木工業者が多く、業界の活性のための施設かなという程度でしか理解していない。	
46	木工会館について、活用の仕方や利用のされ方がどうも明確に分からない。地元に住んでいるが、場所をよく聞かれることから、地元の人でないとまず分からない位置にあると思う。公共施設で知名度がないのも不思議。自分も入ったこともないし、展示を見に行っただこともない。外観から気安く入れる雰囲気もない。徳島市の人にもっと利用したいと思うような存在であってほしい。	
47	現場での認知度も高いため、木工会館は現在ある場所が最適と思う。	
48	現在の木工会館の方が場所も広く、今後の使い方次第ではもっと有意義な展開が出来ると思うし、商品の搬入搬出も簡単に行える。	

その他 (8件)

No	提出された意見の概要	市の考え方
49	中心市街地の活性化の一助としているが、市のまちづくり総合ビジョンはもっと大きな視野で考えるべきだと思う。西新町、東新町の活性化に取り組む姿勢が見えない。	いただいたご意見は、今後の施策運営の参考とさせていただきます。
50	国府町の道の駅の中に木工会館を移転する計画との整合性がない。	
51	業者の意見を十分聞いていない。木工会館あり方検討委員会と新産業設置市民会議の設置を別々にしたことも一貫性がない。	
52	木工会館の建設には、木工業界等から1億2千万円の寄附を受けているので、関係者に説明する義務がある。	
53	現在の地場産業振興協会の役職員の活躍は素晴らしい。これだけの催しをしている団体は他にあるのか。	
54	地場産業振興協会の原点に戻って再検討していく必要があるのではないか。	
55	「木工会館」という名称に、限定業種のために存在しているようなイメージがある。	
56	「木工会館」という施設の名称にこだわらず、藍染めなどの他の地場産業も含めて考え、市民に分かりやすく気軽に利用できるようなイメージの名称に変えても良いのではないか。	